

令和5年度 後志教育研修センター調査研究事業報告会 開催要項

1 事業の名称

令和5年度後志教育研修センター調査研究事業報告会

2 事業の目的

人と物が繋がる人間中心の社会「Society5.0 時代」を推進する上において、デジタル化・オンライン化、そして DX の加速化など社会背景が急激に変化する時代に突入している。次代を担う子どもたちには多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる資質・能力を身につけることが求められている。

現行の学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」の下、個別最適な学びと協働的な学びに一体的に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組をより一層推進していくことが重要である。

当センターではこれらの課題を踏まえ、北海道教育研究所連盟や後志社会教育主事会と連携を図りながら、調査研究事業を学習指導研究委員会と社会教育研究委員会の2本立てで推進してきている。本事業報告会は各学校の学習指導並びに校内研修を担当している教職員や社会教育に携わる社会教育主事等の参加を呼びかけ、当センターの中間報告として成果と課題を明らかにしていくものである。当センターが教育の専門的機関としての力量を高め、管内教育の一層の充実・発展に寄与していきたい。

3 事業の主催及び後援

(1) 主催 後志教育研修センター

(2) 後援 (予定)

北海道教育庁後志教育局 後志町村教育委員会協議会 倶知安町教育委員会 小樽市教育委員会
後志へき地・複式教育研究連盟 後志小中学校長会 小樽市校長会 後志小中学校教頭会
小樽市教頭会 後志社会教育主事会

4 事業の実施内容

(1) 日 時 令和6年1月11日(木) 14:00～16:00

(2) 会 場 倶知安町文化福祉センター 公民館中ホール

(3) 参加対象 後志管内教職員、社会教育主事及び社会教育関係職員、教育関係者、所員

(4) 内 容 令和5年度調査研究事業の報告(学習指導、社会教育)

① 学習指導に関する調査研究 (4年次研究の最終年次)

○研究主題 『授業力の向上と校内研究の活性化』～学びに向かう力の育成を通して～

○研究内容

社会の変化が激しい時代の中で、子供たちには変化を前向きに受け止め、社会や人生を人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていくことが求められる。4年次研究の最終年次では学習指導要領で育む資質・能力の「学びに向かう力」の育成について、検証授業の実施と所員が担当する3つの講座を通して、授業力の向上と校内研究の活性化の調査研究を深めていく。

また昨年度からの試みとして、教職員の授業力向上をねらいとして後志管内の教職員が日常実践している指導案や略案、授業づくりのコンテンツなど集めた指導案バンクをウェブ上で立ち上げ、管内教職員が気軽に使えるようにしていく。

○研究委員長 千葉慎也

副委員長 中村かずえ

② 社会教育に関する調査研究 (5年次研究の1年目)

○研究主題 『持続可能な社会に向け、地域の可能性を引き出す学びを創る社会教育の在り方』

○研究内容

令和5年度より研究主題を『持続可能な社会に向け、地域の可能性を引き出す学びを造る社会教育の在り方』とし、地域・学校・行政が連携して地域を持続していくための社会教育の役割について研究していく。

5年次研究の1年目となる今年度は、サブテーマを設けず、管内各市町村の現状を踏まえた事業を行い、地域の可能性と課題を探るために後志社会教育主事会が主催する「しりべしジュニアリーダーワークショップ」を継続して行うとともに、地域・学校・行政が連携して地域の可能性を引き出すための学校運営協議会の在り方を研究する。

○研究委員長 奈良周弥

副委員長 浦中龍一

5 当日の日程

13:30	14:00	14:20	15:55	16:00
受付	開会式	調査研究の報告		閉会式



来賓挨拶 後志教育局局長 新居 雅人 様



開会式 主催者挨拶 所長 長谷川 誠



閉会式 主催者挨拶 副所長 葛西 良信



来賓の方々



助言者 岸 依美 指導主事



助言者 渡辺 準 主査

学習指導に関する調査研究

研究主題『授業力の向上と校内研究の活性化』

～学びに向かう力の育成を通して～（4年次研究の最終年次）

社会教育に関する調査研究

研究主題『持続可能な社会の実現に向け、地域の可能性を

引き出す学びをつくる社会教育のあり方』（5年次研究1年目）



学習指導研究委員会

研究委員長 千葉 慎也 所員

副委員長 中村 かずえ 所員



社会教育研究委員会

副委員長 浦中 龍一 所員

委員 古渡 月衣 所員



会場の様子

令和五年度 後志教育研修センター
調査研究事業報告会
令和五年度調査研究事業（学習指導、社会教育）報告

期日 令和六年一月十一日（木）
会場 倶知安町文化福祉センター公民館中ホール

調査研究事業報告書

事業名	令和5年度後志教育研修センター調査研究事業報告会
主催者名	後志教育研修センター
後援者名	北海道教育庁後志教育局 後志町村教育委員会協議会 倶知安町教育委員会 小樽市教育委員会 後志小中学校長会 小樽市校長会 後志小中学校教頭会 小樽市教頭会 後志へき地・複式教育研究連盟 後志社会教育主事会
実施日時	令和6年1月11日（木） 14:00～16:00
実施場所	倶知安町文化福祉センター公民館 中ホール
対象及び人数	後志管内教員並びに教育関係者 合計75名
入場料金	無料
事業内容	(1)学習指導に関する調査研究からの報告（4年次研究の4年目） 研究主題「授業力の向上と校内研究の活性化」～学びに向かう力の育成を通して～ 1 研究の概要と柱について 2 研修講座・検証授業について 3 指導案バンクについて 4 今年度の成果と課題について (2)社会教育に関する調査研究からの報告（5年次研究の1年目） 研究主題「持続可能な社会に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育の在り方」 1 研究テーマ「コミュニティ・スクールを通じた地学協働の取り組みについて」 2 サブテーマ「社会教育担当者としての関り方について」 3 コミュニティ・スクールとは 4 地学協働の3つのポイント (1) 社会教育担当者としてのかかわりー喜茂別町の事例からー (2) コーディネーターの役割ー寿都町の事例からー (3) 体制づくりと関係づくりー寿都町の事例からー 5 持続可能なコミュニティ・スクールに向けて
事業成果	□事業内容（1）に係る成果 最終年次の研究では、授業力の向上と校内研究の活性化を目指し、「学びに向かう力」の育成に向けて、所員が担当する3つの研修講座を集合形式で開催し、当センターの研究内容について広く発信してきた。更には、検証授業を通して当センターが推奨している単元計画の作成と板書型指導案を広めることができた。 また、授業力の向上をねらいとして、管内教職員が日常実践している指導案や略案、授業づくりのコンテンツなどを集めた「後志教育研修センター指導案バンク」を作成して2年目となるが、指導案バンクの活用が広く浸透してきていることを実感できた。結果的に、授業力の向上と校内研究の活性化の調査研究を進めることによって、管内各校のOJTに寄与できる研究をより一層深めることができた。 □事業内容（2）に係る成果 本年度より研究主題を『持続可能な社会に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育の在り方』とし、地域・学校・行政が連携して地域を持続していくための社会教育の役割について研究を推進してきた。 5年次研究の1年目は、研究テーマを「コミュニティ・スクールを通じた地学協働の取り組みについて」として、サブテーマを「社会教育担当者としての関り方について」とした。学校教育と社会教育が互恵的な協力関係でもって地学協働を進めていくことの重要性を共通理解することができた。社会教育の立場から、持続可能なコミュニティ・スクールに向けて提言することができたことは非常に大きな成果であった。

□参加者の意見や感想（黒字…プラスの評価、赤字…マイナスの評価、青字…要望等）

1. 学習指導に関する調査研究について

1. 4年次の活動お疲れ様でした。所員の皆さんの日々の実践や研究に対する真摯な姿勢が伝わってきました。指導案バンクが活用され初めて、とても嬉しいです。
2. 研究の柱から、より具体的に日常の授業に生かせる実践が含まれていることがとても良いと感じました。その上でも指導案バンクはとても有効であると思います。自校のみならず、他校の実践を共有し、ブラッシュアップすることこそが後志教育の充実につながると感じました。
3. 本校でも板書型指導案を活用した校内研修を実施していることから、研究の方向性についてとても参考になりました。
4. (校内研修担当者として)板書型指導案、指導案バンク、自校の研修で取り上げられているものがあり、より具体的な授業改善に向かう方策について提案しやすくなった。
5. 指導案バンク、今年度活用させていただきました。しかし、まだ活用の余地があると思います。自身も先生方にもっと宣伝していきたいと思います。(例えば、HPの即時的な更新やSNS、メール等でしょうか)
6. 指導案バンクについても他の先生方にも広く紹介し、是非活用させていただこうと思いました。
7. 忙しくて開くこともしていませんでしたが、指導案バンク、帰ってから自校の先生方と一緒に見てみようと思います。
8. 板書型指導案を蓄積していく指導案バンクの取組は知らなかったもので、初任段階の先生方に伝えたいと思いましたし、自分でも活用していきたいと思いました。
9. 板書型指導案など、初めて知る内容もあって勉強になった。
10. 板書型指導案や指導案バンクについては知らない先生もいますので、本報告会と併せて先生方に周知したいと思いました。決して多くないメンバーの精力的な活動に敬意を表します。
11. 指導案バンクの取組、活用させていただきます。プラスアルファで授業の動画もあるとより効果的かと思います。
12. 単元の指導計画はなかなかつくる時間を設けることが出来ずにいるので、これを機に改めて考えてみたいのです。
13. 学びに向かう力、未来を切り拓いていく力のために必要な質の高い授業実践とはどんな授業でしょうか。学校課題に応じた具体を示していけると本校も授業改善がより進むと感じました。
14. 調査・研究と成果・課題があまりつながっていないと思いました。成果を明確に分析しないと次につながらないと思います。
15. 今回の報告では、一つの学校で取り組まれていたことが、形はその学校に合わせたものとなっても、大切なことがつながることを感じました。研修センターが果たす役割の重さを感じました。
16. 3本柱のどれもパワーアップしていることがよく分かりました。この2年間でめざましい研究の進展が実感できました。今後も職員にたくさん研修講座の受講を奨励させていただきます。

2. 社会教育に関する調査研究について

1. 「学校づくり」と「地域づくり」の好循環のサイクルの話しがとても興味深く、大切なことだと思いました。今回の調査報告を本校にもお知らせし、生かしたいと考えています。
2. 子ども達の授業を請け負っていただく方には申し訳ないと思っていました。が、「やりがい」「自己実現」等メリットと思ってくださる部分があると知り、少し、安心しました。これからは、子ども達からも「心」をお届けできるような関係作りを担任としても意識していきます。
3. 地域を知ること、地域を発信すること、地域を見つめ直すことを学習活動の中に取り入れていきたいと思

います。

- 4.喜茂別町の事例はとても参考になりました。総合的な学習の時間の9年間の計画と目標・ねらいを知りたいと思いました。初めて、参加しましたが、地学協働についてとても良い学びができました。
- 5.社会教育担当者です。初めて参加しました。学校と社会教育と両方聞くことができ、大変勉強になりました。もっと多くの社会教育担当者にも参加して欲しいなと思いました。
- 6.寿都町のように、コーディネータの存在はとてもありがたいとことを改めて感じます。
- 7.一教員として、CSって何?どんなことやっているの?何ができるの?が分かりません。上手くまわっていくのいいのですが……
- 8.学校と地域との互恵的な協力関係という内容が印象に残りました。学校が与えてもらうばかりではなく、地域への還元も考えていかなければと思いました。
- 9.支援し合うという上下の関係ではなく、お互いのつながりを心によって強める工夫が必要になってくると思いました。
- 10.今後ますますCSの役割が大きくなっていくことから、学校運営の基本的な方針について、地域・学校・教育委員会とで共通理解を図ることの大切さを痛感いたしました。
- 11.後志管内全域に本日の話し(成果)が伝わり、全ての市町村で取り組まれると良いと思います。
- 12.社会教育担当者として、学校教育を大きく支える先進事例を学ぶことができました。後志管内20市町村の社会教育担当者同士がオープンシェアしあい、コーディネータの質を高めていただけると学校教育と社会教育両面が充実していくと感じました。ありがとうございました。

3.「調査研究事業報告会」全体を通しての感想・意見

- 1.年間を通して、確実に成果を積み重ね、検証につなげていることを伺え、自校に環流したいと思いました。
- 2.研修係としてきたので、この内容をしっかり校内で環流したいと思います。長く、研修を担当しているが、この会の案内が手元に届いたのは初めてでした。
- 3.多くの先生方に聞いてもらいたい内容だと思います。オンライン等を活用し、広く多くの教員にも参加出来るようにしても良いかと思います。
- 4.学びの複線化がこれからの授業の個別最適化に必要なことに気づきました。新しい情報や取組においていかれないように研鑽を積んでいきたいです。
- 5.学習指導に関わる調査研究の報告がもう少しゆっくり詳しく聞きたかった。助言者のデータもプリント等で頂きたかった。
- 6.今回の報告会を聞いて来年度以降、研修講座等に積極的に参加していこうと思いました。報告の資料だけでも参考になりました。
- 7.質の高い報告だったと思います。だからこそ、誰もが「かんたん」にできるような授業づくりの提案があればと思いました。働き方改革を考えると日常の勤務時間の中では難しい。
- 8.今回得た学びや資料は自身のみに留めておくのではなく、自校の教員に広めて行きたいです。
- 9.研修講座では毎年様々なテーマで行なっていただき、校内の多くの先生が参加しやすいものとなりました。いただいた資料は校内で回覧し、参加していない先生も学ぶことが出来るようにさせていただいております。校内研修講座が11月くらいにあって、各校の研修内容や研修便りの交流が出来たらいいなと思いました。
- 10.オール後志で同じ視点で取り組んでいこうという熱量が伝わってきました。
- 11.自校に研修センターの取組をいかに発信していくか、普段の工夫を考えます。